

パタゴニアのウェットスーツは肌触りがやわらかく、優れた保温性と柔軟性を提供する最高品質の素材を使用しています。この実現には、機能性と耐久性をバランスよく備えるために研究開発とフィールドテストに何年もの時間を費やしました。ただし、どんなウェットスーツも永遠に無傷のままというわけにはいきません。ウェットスーツに穴や傷ができて、摩耗によって素材が薄くなりはじめたら、修理、あるいは補強してください。

修理はウェットスーツを取り扱うパタゴニア直営店（パタゴニア オーシャン、札幌北、仙台、東京・神田、鎌倉、名古屋、大阪、神戸、福岡）にて承っております。ご自身で修理することも可能ですが、直営店でお預かりした場合はウェットスーツを製造する工場にて修理しますので、そちらをおすすめいたします。

## ご自身で可能な修理の種類

直営店での修理／補強をお勧めいたしますが、ご自身で修理をされる場合に短時間で修理しやすいのはカギ裂きや切り傷、破れ、穴などです。さらに摩耗部分の補強も可能です。以下をご参照ください。

\* 注意：修理作業は通気の良い屋外で行ってください。

以下の製品はそれぞれ取り扱い上の注意をご確認ください。修理の際はマスクと手袋の着用をお勧めします。



### 用意するもの

1. 修理箇所の汚れを落とす変性アルコール
2. きれいな布
3. 長さ 12mm の硬いハケ
4. マスキングテープ
5. 低密度ポリエチレン（レジ袋などのビニールではなく、ジップロック® などのしわにならない透明ビニールを切って使用）
6. 裂傷を修理するネオプレン用接着剤（サーフショップで入手可能）
7. 穴を塞ぎ摩耗部分を補強する Seam Grip®（アウトドア専門店で入手可能）
8. ハサミ
9. 重し（表面が滑らかな石や分厚い本など）

## 修理の前に

- ウェットスーツが完全に乾き、砂や砂利がついていないことを確認してください。
- きれいな布と少量の変性アルコールで修理箇所の汚れを落としてください。
- アルコールが乾くまで待ちます。



## 通常の傷や穴の修理

- 接着させるすべての表面にハケでネオプレン用接着剤を薄く塗り、5分間乾かします。\* 裂けた表面同士がくっつかないように注意してください。
- 接着剤をもう一度塗り、10分間乾かします。接着剤に粘着性が出てきます。

- 均等に力を加えて、表面同士をしっかりと押さえます。
- 6時間以上乾燥させてから着用してください。\*

\* 耐久性と接着力を強化するためには、次の「Seam Grip を使っての補強」をご参照ください。



## Seam Gripを使っの補強 (オプション)

- 紙の上に Seam Grip を少量出します。
- ハケを使って修理箇所とその周囲 6 ミリに薄く均一に塗ります。指では塗らないでください。
- その上に透明の低密度ポリエチレンを乗せ、表面が平らな重しで押さえます。
- 12 時間以上乾燥させてから着用してください。



## 大きな傷や穴の修理

- 2面を接着できない場合は Seam Grip で穴を埋め、摩耗部分を強化してください。
- きれいな布と少量の変性アルコールで修理箇所の汚れを落とします。
- 紙の上に Seam Grip を少量出します。
- ハケを使って穴や傷を埋めます。
- その上に透明の低密度ポリエチレンを乗せ、表面が平らな重しで押さえます。
- 12 時間以上乾燥させてから着用してください。



## 摩耗部分の強化

肘や胸部など広い範囲が摩耗して薄くなってきた場合も Seam Grip を薄く塗って補強することができます。

- きれいな布と少量の変性アルコールで修理箇所の汚れを落とします。
- アルコールが完全に乾くまで待ちます。
- マスキングテープを使って摩耗部分を縁取ります。
- ハケを使ってできるだけ薄く Seam Grip を塗ります。指では塗らないでください。
- マスキングテープを取り除きます。
- その上に透明の低密度ポリエチレンを乗せ、表面が平らな重しで押さえます。
- 12 時間以上乾燥させてから着用してください。



## 接着剤の保管

- キャップおよびチューブの先端についた接着剤をきれいに拭ってください。キャップはしっかりと締めてください。
- 乾燥した涼しい場所で保管してください。